



自然物（植物）

あかぐみ（4.5歳児）

テーマとした理由や背景

- ・散歩先で多くの草花を見つけ匂いや感触、色を観察したり、草花を使い色水を作ったりすると草花に興味を持ち始めた。
- ・花を育ててみたいと声が上がりに種から花を栽培してみようとなった。
- ・栽培を通して子どもたちと草花を使っての遊びを探究したいと考えた。

活動 春の散歩

(4月中旬)

期待する経験 自然物に気づき興味を持つ

- ・散歩中に春の花や葉っぱを見つけ、匂いや感触を感じる。
- ・摘んだ草花を友だちと観察する。



子どもの様子や言葉

- ・ 春の花や葉っぱを見つけて集める。
- ・ 「いい匂いがする！」 「なんかネバネバしてるよ」
- ・ 花や葉っぱの匂いや感触を感じる。
- ・ 「花や葉っぱで色水遊びしてみたい」
「どんな色になるのかな？」
- ・ 「あかぐみでもいるんな色の花をやってみたい。」
「びわの種や朝顔の種があるよね。」



振り返り（気づき、省察、考察）

自身として

- ・散歩中に草花に興味を持つ子が多くいた。
- ・園庭遊びで色水遊びを見つけた草花でやってみたいと声が聞こえてきたので、道具を準備し実践してみようと思った。
- ・花に興味を持っているので、花を種から栽培してみたい。

クラスとして

- ・草花に興味を持っているので、クラスでも花の栽培などしてみたい。
- ・摘んだ草花で色水遊びをしどんな色になるのか、子どもたちと遊びながら探求していく。

活動 草花を使って色水遊び (4月初旬)

期待する経験 草花ってどんな色？

・ 前回摘んだ草花を使い
色水遊びを行う。

・ すり鉢、水、小さなペットボトル。

・ 草花をすり鉢に入れ、水を足し色を抽出していく。



子どもの様子や言葉

- ・「葉っぱが大きいから千切って入れよう」
- ・「グリグリって棒でするんだよね。」
- ・「なんか匂いがする。」
- ・「見て！黄色になった！」
- ・「いろいろ混ぜたら変な色になったよ。」
- ・「葉っぱだけだと、緑。混ぜると変な色！面白い！」
- ・「あかぐみでお花を育てて、色水遊びをしてみたい」



振り返り（気づき、省察、考察）

自身として

- ・子どもたちが好きな草花を選び、「たんぽぽは黄色だろうな。」
「葉っぱは黄色かな？」と予想しながら、色水を作っていた。
- ・友だちとのやりとりも増えてきた。
「どの花がいい？取れる？」など、ちょっとしたことの積み重ねが次へと繋がっていくのだろう。

クラスとして

- ・道具の使い方や、どうやったら草花から色を抽出できるのか、試行錯誤していた。
- ・散歩で摘んだ草花を使って色水遊びを行ったことで、クラスでも花を育てて、その花で色水遊びをしたいと子どもたちの気持ちが強くなった。

活動 花の種を育てる (5月初旬)

期待する経験 花の種ってどうやって大きくなるの？

- ・ 前回の色水遊びを経験し、自分たちで花を育ててみたい。
- ・ 昨年度できた朝顔の種を植えて、朝顔を育ててみよう。
- ・ 湿ったキッチンペーパーとジップロックを使い、花の種が発芽できるようにする。
- ・ 紙芝居を通して、朝顔の育ちを知る。
- ・ 発芽した種を土に植える。



子どもの様子や言葉

- ・「やった！朝顔の花咲くかな？」
- ・「〇〇ちゃん（卒園児）が育てた朝顔の種だ！」
- ・「朝顔アパートの紙芝居みたいに種から赤ちゃんが出てきた！」
- ・「ねぼすけの種もいるんだね。この種はまだ出ないからねぼすけかも。」
- ・「赤ちゃんが出てきたから、アパート作ろう。」



振り返り（気づき、省察、考察）



自身として

- ・昨年度の朝顔の種を引き継ぐことで、卒園した子や前担任への思いを知る。花が咲いたら、また次へと繋がる。
- ・紙芝居から朝顔の花が咲くまでの成長を知った。実際に種の育ちを見て、紙芝居と重ねていた。

クラスとして

- ・自分たちで種を布団に寝かせ芽が出てくる様子を観察。芽が出てきたら「赤ちゃんが出てきたから土の布団に引っ越そう。」と発芽した種を土に植えた。
- ・花の成長のドキュメンテーションを子どもたちと作成する。

活動 毎日の水やり

(5月中旬～9月)

期待する経験 水やりから花の成長を観察する

- ・ 前回の芽が成長していく。
- ・ 毎日の水やりから、夏野菜や花の成長を観察。発見もある。
- ・ 夏野菜の畑の中に朝顔の双葉も発見。
朝顔だけの畑を作る。
- ・ 夏野菜の水やり中、乳児さんが畑とわからず、入っていく姿を発見。
境目がわからないから、柵を作ろう！



子どもの様子や言葉

- ・「あー赤ちゃんが入っちゃう！畑がどこかわからないよね。」 「木の棒を findings、柵を作ろう！」
- ・「棒と紐をつけて柵になるね。」
- ・「朝顔も野菜畑に咲いてる！朝顔のアパートになる畑を作ろう。引っ越した。」
- ・「毎日水やりをしたら、いつか花が咲くかな？」
- ・「葉っぱがぐんぐん伸びてきた！」



振り返り（気づき、省察、考察）

自身として

- ・ 毎日の水やりの中で花だけでなく、夏野菜の畑にも興味を持ち、乳児の行動も観察している姿があった。
- ・ 柵作りでは、子ども同士で協力していく姿があった。

クラスとして

- ・ 葉っぱが増え、ツルが伸びていく成長を観察。発見をクラスの時間に発表する姿があった。

活動 朝顔の花と種の収穫

(8月中旬～9月下旬)

期待する経験 花が咲いた！種は宝物だね！

・朝顔が成長し花が咲く。

花が咲き終わると種ができる。

・花は摘んで冷凍し、咲き終わった頃
たくさんの花で色水遊びをする。

・茶色く乾いた種を収穫。殻を剥き、
種だけを収穫する。



子どもの様子や言葉

- ・ 「赤紫と青色の朝顔が咲いたね。綺麗！
冷凍したら色水ができるの？」
- ・ 「いっぱい冷凍して色水で遊ぼう！」
- ・ 「朝顔の種が茶色になったら、採っていい種だよね。」 「花が咲き終わったら、緑の種になって、茶色くなるんだね。」
- ・ 「種をまた植えたら朝顔が咲くんだね！
すごい！じゃあ種は宝物だね。その種を売って大金持ちになる！」
- ・ 「外の日の宝箱に種を入れようよ！」



振り返り（気づき、省察、考察）

自身として

- ・ たくさんの花が咲き、咲き終わるまで時間がかかるので、冷凍し花を保存することにした。花を摘み冷凍していく花が増えていくことを喜ぶ子どもの姿があった。
- ・ 朝顔の種を宝物と例える姿に子どもの思いが伝わった。

クラスとして

- ・ 種から育てた朝顔の花が咲き、種ができる成長を日々観察していた。
- ・ クラスの枠を越えて、子どもたちと花の成長を発見する姿があった。

活動 朝顔の花で色水遊び (9月～2月)

期待する経験 朝顔の花で色水遊び。色が変わる！

- ・ 冷凍朝顔の花を使って色水を作る。
- ・ ネット、ジップロック、クリアカップ、スプーンを使い、色水遊びをする。
- ・ 花により、色が違う。また、重曹とクエン酸を加え色の変化を発見する。
- ・ 和紙を使い、染め紙を作る。



子どもの様子や言葉

- ・ 「やったー！冷凍の朝顔いっぱいできたね。」
「なんかいい匂い！」 「冷たいね。」 「モミモミすると、色が出てきた！」
- ・ 「わあー！朝顔ってこんなに綺麗な色なんだね！」
- ・ 「魔法の粉を2つ用意したの。入れると、
どうなるかな？」 保育者の問いに、
「もしかして、色が変わるの？」 「やってみよう！」
「えー！すごい！！泡が〜！」



子どもの様子や言葉

- ・ 朝顔の色水を使って染め紙を作る。
 - ・ 「こいっちゃんと染め紙やったよね。
- 朝顔の色水ではどんな色になるんだろう？」



- ・ 「朝顔の色になった！」
 - ・ 「ここの窓に飾ろうよ！」
 - ・ 「忘れないように書いておきたい。
- どうやって作ったっけ？」



- ・ 「この染め紙で宝物作ろうか？」
- 保育者の提案に「やったー！宝物になる！」



振り返り（気づき、省察、考察）

自身として

- ・春散歩から話していたことが実現する。
子どもの呟きから実現するまで、子どもと一緒に試行錯誤しながら活動していた。



クラスとして

- ・色水遊びから、造形活動でやった染め紙遊び、そして宝物にしたいと、外の日で染め紙を使いマスターカードを作った。
中の日では、マジックをしたいと朝顔の色水マジックを行った。
子どもたちと一緒に活動を繋げていく面白さを感じた。

活動 冬の種まきから花畑へ (12月中旬～1月)

期待する経験 冬には花は咲かないの？

- ・ 朝顔の種を冬に植えたら、卒園までに花が咲くかな。
- ・ 卒園までに花畑を作りたい。
- ・ また花を育てたい。
- ・ 朝顔の種を植えて、枯葉の葉っぱ布団を作ってみたが、発芽しなかった。
- ・ 冬に強い花の苗と球根と種を用意。
- ・ 冬野菜が終わった畑を花畑に。



子どもの様子や言葉

- ・ 「花畑を作ろう！」 「元気な花が咲くためには栄養が必要なんだね。」 「耕すっていのの？」
「やってみたい！」 「寒いけど、花が咲くかな？」
「ここが、パンジーのお家。ここがチューリップ。ここがミックスフラワーの種のお家。」
「卒園するまでに咲くといいな。」
「お花好きだから、楽しい。」
「みんなの花畑だね。」
- クラスも学年も越えて、花畑作りが始まった。



振り返り（気づき、省察、考察）

自身として

- ・1人の子の眩きから始まった花畑。
寒い冬には朝顔の発芽は難しいが、
やってみてからこそ、次へのヒントが
見えてくると思った。

クラスとして

- ・クラスや学年の枠を越えて、探究心を繋げていく面白さもある。

活動 水やりから虫探し、開花へ (3月中旬～下旬)

期待する経験 水やりから新たな発見が！

- ・ 花畑の水やりで、
花の成長を観察。
- ・ 花の成長を観察している
中で、ダンゴムシ探しに。
- ・ 冬でも花が咲いた。



子どもの様子や言葉

・ 「花畑にはダンゴムシがいるんだよ。」

「水やり終わったら探そうね。」 「ここら辺に
いるよ。」 と4歳児と2歳児の子たちが

探していると、5歳児の子が「ダンゴムシなら、
お花のプランターの下にいるよ。動かしてごらん。」

「わあ！ いっぱいいる！」 と喜ぶと、「せいび
ではここにダンゴムシがいるの有名だよ。」

異年齢児の関わりの中で伝わっていく。

・ 「冬に花が咲いた！」 「卒園前に咲いた！」

「私たちって、お花を育てる天才だよ！」



振り返り（気づき、省察、考察）

自身として

- ・子どもたちと一から作っていく活動の面白さが自然物からも育まれていく。
- ・花の成長過程を通しての子どもたちの発見や疑問などを探究し活動へと繋げていった。
- ・育てた花が引き続き、遊びの材料として活かされていく。
- ・朝顔の種も次の代へと繋がっていく。

クラスとして

- ・年間を通して植物の栽培を活動へ取り組んでいったので、植物への興味関心を深め、種を見つけると、どうやって栽培しようと考え子どもたちと試行錯誤し、探求していった。

